

第3回 就職氷河期世代支援に係る全国プラットフォーム 配布資料

関水徹平(立正大学社会福祉学部)

以下の図1～3は、ひきこもりUX会議が実施した「【緊急アンケート】コロナ禍におけるひきこもり・生きづらさについての調査 2020」(『ひきこもり白書』(近刊)所収)からの抜粋である。同調査の実施概要は以下の通りである。

【調査主体】一般社団法人ひきこもり UX 会議

【調査方法】Google フォームを用いたオンライン調査

【調査実施期間】2020年12月22日(火)～2021年1月4日(日)午前1時

【有効回答数】総回答数 398 件のうち重複回答と判断された 1 件を除いた 397 件¹

※回答者の年齢は 10 代以下～70 代以上までと広いが、30 代と 40 代が中心(70.0%)である。また、回答者の性別(性自認)では女性が多く、70.2%である。

図1:「コロナ禍によって、あなたの生活は経済的に困窮していますか」

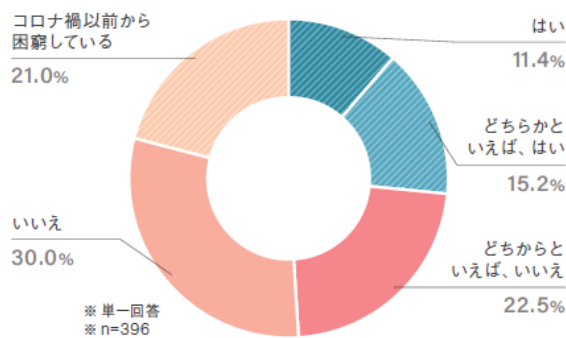
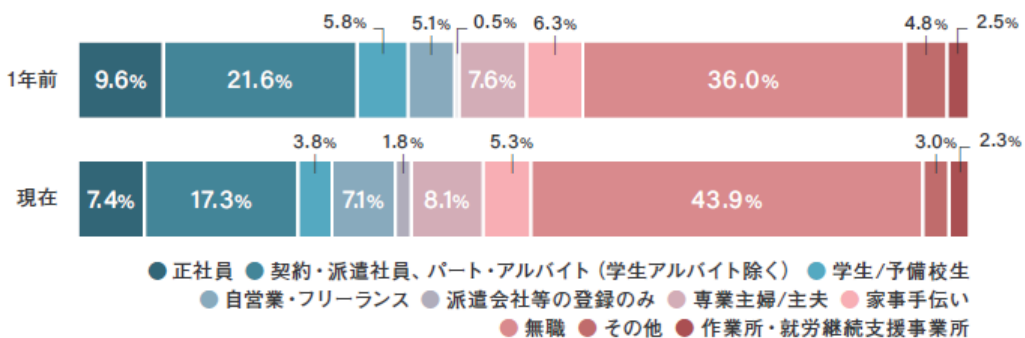


図 2:「1 年前のあなたの就学・就労の状況」と「現在のあなたの就学・就労の状況」



¹ UX 会議調査では、ひきこもり・生きづらさの当事者・経験者を調査対象としているが、調査対象に該当するかどうかについては回答者本人の判断に委ねられている。なお、客観的定義に基づくひきこもり調査(「足立区生活状況に関する調査」(2019 年実施)など)においても、ひきこもり状態にある人の経済的困窮の経験率の高さが示されている。

図 3: 経済的状況に関する自由記述

① 直面する経済状況の悪化や困窮

- “ 自分の貯金を食いつぶしている状態で、今後の見通しも立たず、精神的にも落ち込みつつある。とにかく不安。 ”
- “ 元々少ない収入が減ったりなくなったり（内職が不安定）してさらに家族も低所得であり、とても不安を感じています。 ”
- “ 収入が減り、生活が苦しくなりこれから先どうしたらいいか不安。 ”
- “ 内職仕事がなくなり収入が無くなったのが痛かったです。 ”
- “ 今私は貯金の底が見え出したのでお金を稼がなければいけない状況にあります。しかし元々社会に対して恐怖感があるのにコロナで外出がさらに不安になり未だに外に踏み出せていません。 ”
- “ コロナが流行り出してから就職活動も感染が怖くてできなくなり、引きこもるようになった。 ”

② 将来的に懸念される経済状況の悪化や困窮

- “ フリーターで収入が不安定な為、コロナ禍以前から親亡き後のことを考えていましたが、外出が減ってより一層考える事が多くなりました。 ”
- “ 母の年金で生活しているため、母がコロナに感染して亡くなったら、私も死ぬしかないと思いながら不安な日々を送っています。自殺のニュースばかり見せてしまいます。恐ろしいです。 ”
- “ ひきこもりと短期の非正規を繰り返していて、女でもう若くもなく履歴書がボロボロです。コロナ禍で非正規女性の失業が顕著になり自殺者が増加していること、そうなっても生きていけると信じられる対策が講じられていない社会に、ただただ絶望と不安が強まります。たまたま今ひきこまれる環境にいますが、それも薄氷の上でという感覚です。 ”
- “ 貯金を切り崩して在宅ワーク出来る仕事を勉強しているが、自宅で母を支えたりする時間（家事など）にて個人ではスキルアップに限界を感じ、また、仕事が決まらず経験を積む事もできない。PCや通信費もかかる。生きる事を諦めたくもないが、この状況が続けば生きられない。 ”
- “ 不安定な雇用形態かつ小規模の企業で働いているので、会社の業績悪化して倒産して路頭に迷わないか不安。 ”